

安倉音頭



安倉音頭の由来

あくらおんど
安倉音頭は宝塚市南部に位置する安倉地区に伝わる撰津音頭の総称です。撰津音頭は宝塚市川面池田地区の伝承で、火事が多発していた江戸時代に「千吉稲荷大明神のお稲荷様に踊りを奉納せよ」とのお告げがあり、火事を取るために奉納するようになったのが起源と言われています。

かわべくん
その後、旧川辺郡一円に広まり、伊丹市では撰津音頭、宝塚市では千吉踊りや安倉音頭と呼ばれ、盆踊りとして幅広い世代から親しまれています。



安倉音頭の内容

例年8月20日(土・日と重なる場合は翌月曜日)に開催される「宝塚サマーフェスタ」内で、クライマックスを飾る市民総踊りの盆踊りとして会場の雰囲気盛り上げます。大太鼓、小太鼓、歌い手、踊り手で構成されており、小太鼓は地元の子どもの会の子ども6~7名、その他の大太鼓、歌い手、踊り手は婦人会などの地域の大人がボランティアで担当します。踊りは稲が実って稲刈りをする時の様子を表現しており「チョイトカケタ」というはやし言葉が特徴です。



安倉音頭

[日時] 8月20日 20:30ごろ
(宝塚サマーフェスタ内)
※当日が土・日の場合は翌月曜日

[場所] 末広中央公園
〒665-0031兵庫県宝塚市末広町



保存団体

安倉音頭保存会

おかもと やすお
代表 岡本 康夫さん

裏面に岡本さんのインタビュー記事を掲載しています

保存会代表インタビュー

安倉音頭保存会
代表 岡本 康夫さん

出前講座で地域や家族がふれあえるきっかけづくり

サマーフェスタの本番以外にも時代をつなぐ若手の育成ということで、小学校や幼稚園で出前講座を行っています。幼稚園のオープンスクールで子どもたちが園庭に出て、家族と一緒に歌ったり踊ったりする様子を見た時は大変感動しました。子どもたちは小さいうちに覚えたことはなかなか忘れません。太鼓のリズムや踊りの振り付けはもちろん、経験としても頭の片隅に残っていくものです。

また、子どもと一緒に安倉音頭^{あくらおんど}を踊ったという思い出は、家族にとっても心に深く残ったのではないかと思います。



太鼓を通して人々の繋がりを

今回の阪神北ふるさと文化の伝承事業で、小太鼓を2つ新調することができました。太鼓の数が増えれば、出前講座でも子どもたちが太鼓に触れられる機会も増えますし、より多くの子どもたちがサマーフェスタに出演できるようになります。サマーフェスタでは万単位のお客さんが集まる中、多くの人の前で太鼓を披露できるということは、本人たちにとっても誇らしいことだと思います。

まずは、太鼓に実際に触れてみて、なじんでいくことが重要です。いろんな方に太鼓に触れていただける場を作ることで、安倉音頭の裾野が広がっていくと考えています。



若い人には積極的に輪の中に入ってほしい

盆踊りは浴衣を着ている人でないといえぬ踊れないということはありません。たとえ歌詞がわからなかったり、踊りを知らなかったりしたとしても、まずは同じ輪の中に飛び込んでみるこそが大切です。最初は見よう見まねでいいと思います。太鼓に関しても同じで、やってみたいという自主性が継続につながっていきます。

今の時代、インターネットでいつでもどこでも安倉音頭の動画を見ることができます。今後も地域の人の心のよりどころとして守り続けていきたいと思いますので、興味のある方はぜひご参加いただければと思います。

安倉音頭に参加した子どもたち

Q 今までの練習の中で大変だったことは何ですか？

A 太鼓の練習に参加したのは初めてで、本番もとても緊張しました。最初は全然叩けなかったけど、色々な人に教えてもらって最後までできるようにになりました。大人になったら今度は子どもたちが頑張っ叩いているところを見たいです。



阪神北ふるさと文化の伝承事業の概要

兵庫県阪神北県民局では、地域の伝統文化を次世代に伝承し、住民のふるさと意識を高めるため、平成29年度からこの事業に取り組んでいます。

—コメント—
田辺真人審査委員長
(園田学園女子大学名誉教授)

都会の中で新しい伝承が行われている安倉音は、子どもたちの自主性を育むいい取り組みですね。



発行／兵庫県阪神北県民局
問合せ先／同県民交流室地域振興課
TEL 0797-83-3133
版下制作／デザインオフィス・イコールライツ

兵庫県ホームページにて
安倉音頭の動画記録や
詳細なインタビュー記事などを
公開しています。



「阪神北ふるさと文化の伝承事業」平成29年度助成対象：①ケトロンまつり②安倉音頭③六斎念仏～ひつつんつん～